

馬流天星 データアート展望台



2008年日本ダービー予想特別号!

競馬の祭典、牡馬クラシック第二弾「日本ダービー」がやってまいりました。私にとっては第5期最終戦であり、最後まで頑張って予想したいと思っています。
今回は通常通り馬流天星を運営する下記の2人で作成いたします。



馬流天星 (HP)
<http://baryutensei.com/>

馬流天星:スカイポット
馬流天星の創業者で、現在はHPとメルマガ担当。当初はデータ予想に情熱を燃やしていたが2004年頃からレースを見る予想に転向。現在は独自指数を用いた予想を行っている。皐月賞は実馬券で的中となったため日本ダービーは予想的中を目指
馬流天星 (メルマガ)
<http://archive.mag2.com/0000140588/index.html>



馬流天星 (ブログ)
<http://blog.livedoor.jp/skypot/>

馬流天星:ワックスムーン
豊富なキャリアや知識及び活発な情報発信力を持ち、現在はすっかり馬流天星のブログを取り仕切っている方。私は騎手や厩舎、血統の重要さを教えて頂きました(最近になって、かなりデータ派だと認識^^)。
今回も独自データを使った予想文に期待大です。

スカイポットの日本ダービー予想 (前説)

①ご承知かとは思いますが、ダービーの説明など

「日本ダービー」は、競馬発祥の地イギリスで行われているダービーにちなんで日本版ダービーという意味で名前が付けられた、3歳牡馬の頂点を決めるレースです。
競馬関係者が最大目標にしており、勝利することに(出走させることに)最も栄誉あるレース。騎手はこのレースを勝つと「ダービージョッキー」の仲間入りができ、目標にしています。競馬ファンにとっては年間最大のお祭りですね。日本のダービーは今年で75回目となります。

クラシック競走なのは先日の京成杯、弥生賞、皐月賞などと同じですが、3歳牡馬しか出走できないので、どんな馬も一生に一度しか出走することができません。
(有馬記念や天皇賞はまた翌年挑戦することができます)

ファンは基本的に応援すること(馬券も含め)でしか関わられません、陣営がマジに頂点を競うレースですので、様々な熱気を感じて競馬を楽しんで貰えればと思います。
私としては、よりワクワクできるような面白い予想を提供できればと思っています。

6月1日(日)はご都合が良ければ府中の東京競馬場に足を運んでみるのもおすすめです。人が混んでいますが、現地でしか味わえない魅力も大きいですよ!(その際には、この予想レポートの打ち出しをお持ちください(笑))

②波乱世代の若駒戦最終戦

過去15年の日本ダービーで1番人気に支持された馬の成績は(10, 3, 1, 1)という内訳で、非常に堅いレースと言われています。

<参考:過去15年の1番人気馬とその父親>
1993年ウイニングチケット(父トニービン)1着
1994年ナリタブライアン(父ブライアンズタイム)1着
1995年タヤスツヨシ(父サンデーサイレンス)1着
1996年ダンスインザダーク(父サンデーサイレンス)2着
1997年マジロブライイト(父マジロリアン)3着
1998年スペシャルウィーク(父サンデーサイレンス)1着
1999年ナリタブロード(父サッカードーイ)2着
2000年エアシャカール(父サンデーサイレンス)2着
2001年ジャングルポケット(父トニービン)1着
2002年タニノギムレット(父ブライアンズタイム)1着
2003年ネオユニヴァース(父サンデーサイレンス)1着
2004年キングカメハメハ(父キングマンボ)1着
2005年ディープインパクト(父サンデーサイレンス)1着
2006年メイショウサムソン(父オペラハウス)1着
2007年フサイチホウオー(父ジャングルポケット)7着

これは東京2400mという条件が実力を発揮しやすいコースだからでもあり、3大種牡馬と言われたサンデーサイレンス、ブライアンズタイム、トニービンの子供たちがしっかり人気に応えたためとも見てとれます。

トニービンやサンデーサイレンスが亡くなり、昨年はトニービンの孫のフサイチホウオーが1番人気になりましたが、あっさり敗れてしまいました。昨年は1番人気馬が絶対来ると信じられたためか、1番人気馬が単勝1.6倍の断然人気に推され、結果3連単200万馬券の大波乱になりました。

今年も上記データによって1番人気馬がまた偏った支持を受けるかも知れませんが、あまり信頼しなくて良いと思います。今年はブライアンズタイムの子供であるマイネルチャールズが皐月賞で1番人気になりましたが3着に敗れ、ダービーで1番人気になれるか微妙な位置にいます。

今年の3歳世代は中心馬不在の大混戦です。昨年からは主要なクラシック関連レースで大波乱が連続して、振り返れば、1着から3着まで当てる馬券(3連単)の配当が5万馬券を切ったレースが3度しかないという異常な状況です。85%が5万馬券以上、50%が10万馬券以上、15%が70万馬券以上です。過去ここまで波乱が続いたクラシックというのはなかったのではないのでしょうか(昨年はNHKマイルCが極端に荒れており、平均額としたら昨年のほうが高いです)。

この流れから、積極的に人気薄を選択し夢を見るのが面白いでしょう。自分のこれだと思ふ穴馬を見つけたら新聞の印などは無視して狙ってみることをオススメします。
今回私からはとびっきり穴馬をご紹介しますが、ご参考までとさせていただきます(笑)

◆参考:今3歳世代の牡馬クラシック関連レースとその3連単配当
デリー杯...67,570円
京王杯...170,230円
東スポ杯...146,220円
朝日杯...139,620円
ラジオNIKKEI杯...42,180円
シンザン記念...10,740円
京成杯...86,870円
共同通信杯...752,020円
きさらぎ賞...213,030円
アーリントンC...896,050円
弥生賞...23,340円
若葉S...58,430円
スプリングS...184,520円
毎日杯...233,880円
NKT...76,430円
皐月賞...82,750円
青葉賞...61,180円
プリンシパルス...1,793,430円
京都新聞杯...79,590円
NHKマイルC...116,880円

上記20レースの平均3連単配当...261,748円
(次項に続く)

スカイポットの日本ダービー予想

逃げ粘って大波乱！◎アグネススターチ

③アグネススターチ本命の7ヶ

1. 指数の高さ
最近では指数だけで評価をせず、SHP理論と調整して予想をするようになってきているものの、天星流の予想で最重要視しているのはやはり指数の基礎にあるかどうか。アグネススターチは以下のとおりメンバー中非常に優秀な指数を出しています。

- ☆出走各馬の指数
- 5アグネススターチ 64.1 (重巧者?) タフ☆
- 1ディーブスカイ 64.0 (延長↓、重巧者?) 加速◎、持続○
- 13ベンチャーナイン 62.1 (重巧者?) 末脚◎
- 10レインボーベガサス 61.3S 持続◎
- 8アマイヤコマンド 60.8S (前走速↑?) 加速○、持続◎
- 7スマイルジャック 61.2 (調子↓?) 加速◎
- 3ブラックスヘル 62.0 (延長↓) 加速○、タフ○
- 2サクセスブロッケン (62.3 ☆) スター○、ダッシュ○、加速◎
- 4タケミカツチ 60.3S 末脚◎
- 9マイネルチャールズ 60.5S 持続◎
- 17ショウナンアルパ 62.2 (延長↓) ダッシュ◎、加速◎
- 18クリスタルウイング 60.3S 持続◎
- 6モンテクリスエス 59.3 持続◎
- 15フローテーション 59.9S 加速◎
- 11レツゴーキリシマ 59.9S (延長↓ 調子↓) ダッシュ○、加速○
- 14エーシオワード 58.6 (持続○)
- 16メイショウオリア 57.2S 持続○
- 12サブジェクト 56.8S 加速○

本当かよ!? と思われませんか。なぜ、アグネススターチにこのような高い指数が出ていくのかについてご説明いたします。今回は天星指数計算上の現場へご案内いたします(特別なす)。下記リンクページを開いてください。
→<http://baryutensei.com/208derb.htm>

皇月賞、青葉賞、プリンパルス、NHKマイルCの指数算出表のエクセルシートへの抜粋を掲載しています(ちなみに、馬流天星では、このような指数算出表の作成を、6月の新馬戦から1Rずつ全ての芝レースで行っています)。

画面の見方ですが、左側に一般の結果データがあり、厩舎名よりも右側の欄で指数計算を行っています。で、「算定指数」という欄が各馬の指数となります。現在は1600m以下のレースの指数を+1.5とし、1800m以上のレースの指数を+2で修正をかけており、また、2400mの距離に対応した減少も計算されるため、先に掲載した出走各馬の指数とはちよっと数字が異なりますがこれが天星指数になります。

算定指数は右の「予想時指数」を参考に算出されます。「予想時指数」とは、このレースよりも以前の各馬の持ち指数です。右の欄の「距離」を足した予想時指数と、算定指数ができるだけ近い数値になるよう調整を行います。なお、その調整を行うと同時に、各馬のコーナリングによるロスやバイアスロスなどを「ロス補正」という欄に手入力で入力し、調整を行っています。「ロス補正メモ」でどのような補正計算をしたか書き残してありますので、これを見てご納得頂けるかどうか。ご判断は皆様に委ねます。

④各馬コメント

- ディーブスカイ(四位)
きっかけは不明だがアーリントンCあたりから数段成長してきて、NHKマイルCでは皇月賞組と青葉賞組と比較して抜けた指数をマークした。上がり33.9秒の末脚も心強い。跳びは大きいのが加速系の走法を上がり、府中のマイルがベストだとも思うが、今の充実ぶりなら2400mの大舞台でも差し脚を伸ばして来られると思われ、対抗に推す。最内枠でコースロスなく運べるのも理想的。○
- サクセスブロッケン(横山典)
4戦4勝の無敗馬だが、戦歴は全てダートでのもの。こういうケースは通常であれば人気で消えるものだが、この馬の場合は単に軽視するには勿体無い。まず、基本となる能力だが、ダート戦での相手関係、タイフックワン、サンヨーヒルトップ、ダイワシークレット、サトノヒネス、エーシカンダーの5頭を基準とした平均で見積もったとすると、2400m 62.3級と算出。更に、この馬は4戦の着差が、▲3.1、▲0.6、▲0.7、▲0.0と度を見せしていないため楽勝リスク(☆)がつき、まだ指数を上げる可能性がある。先行セムスがあり、前々でレースを進めながら前4走で上がり最速3回、2位1回を出しており、末脚はしっかりしている。リスク馬調査でも、血統3点(父シンボリクリスエス(芝OK・距離OK) 2、母アサンデー1、兄弟0)、調教4点、レースレベル4点(古馬準OP級の時計が出ている)、SHP5点(ダッシュ○1、加速◎4)の合計13点となり、買ったほうが良いと判定される。ただし、見るからに加速系のレースぶりなので追って案外というイメージが湧くし、シンボリクリスエス産駒は決め手に甘いタイプが多いようなので1着はないと思うが、消しにはできない。△
- ブラックスヘル(武豊)
NHKマイルCでは指数を上昇させ2着。少し成長したようにも見えるが、クロナ産駒のため本質的には距離は長くないほうが良いはずで、評価は変わらない。跳びの大きい馬でタフ系SHPも感じられるため、溜めない競馬のほうが良さそうだが、鞍上の性格上そのような騎乗は見込めそうもなく、父クロナと同様流れ込むレースぶりになるだろう。内枠はプラス。△
- タケミカツチ(柴田善)
皇月賞2着。上がり順位も2位で過去のダービー好走パターンに合致している。前走は内枠を生かし、コースロスも少なくしての上がり時計のためフロント条件で評価すると妙味は薄く感じられるが、再三の内枠引きでも今回もコースロスを抑えたレースができそう。皇月賞より順位が上がるようにも思えないのだがどうだろうか。注
- モンテクリスエス(福永)
戦歴に見る相手関係は一線級から落ちるもので、この馬がそれなりの内容で3着に入った青葉賞のレース自体があまり評価できないように思える。この条件を得意とする福永騎手は強みだが、前走は騎手の腕が最大限に生かされた結果だったと見て軽視する。注

ここまで、大体ご理解頂けたでしょうか。そこで、プリンパルスのシートをご覧ください。4角で最内を通っていた馬はアグネススターチとサイレントフォース、メイショウテッペイの3頭ですが、アグネススターチ以外の2頭は持ち指数より大きくパフォーマンスを下げています。内を通過していた4頭も、パフォーマンスを下げ、内を通ったマイネルスターリーの指数減が1程度であることから、内を+1、最内を+1.5で補正をかけた。下位の3頭は補正をかけてもまだマイナス8くらいなので、やる気も失った(追ってない)惨敗と考えますが、大幅な指数減なので補正は過度なものとは思いません。

また、このレースではアグネススターチが逃げましたが、オースミスパークも前走で結果を出したことから逃げようとし、お互いに譲らず向こう正面でも競り合いを続けていました。ペースもミドルとなり、前に行ったこの2頭にはい負荷がかかったレースと見えます。実際、オースミスパークは持ち指数よりパフォーマンスを下げており、2頭に+1.5のロス補正を行いました。これで補正だけでアグネススターチに+3の補正が行われるのですが、このレースにはヤマニンキングリ、マイネルスターリーらクラシック路線の重賞でも通用する指数上位馬が出走しており、その馬たちと指数を調整させたところ、異常とも思える程の高指数となりました。プリンパルス以前のアグネススターチの持ち指数は55.7(ー1)でしたが、できるだけ多くの馬の指数と調和させるため、アグネススターチのSHPをタフ☆とし、高い指数を採用したため。63.1とありますが、修正-2と2400m距離への修正-1を計算し、日本ダービー予想向けの指数は「64.1」です。重馬場リスクはありますが、指数の器はあると考えます。

2. 逃げ宣言、SHP、種牡馬、バイアス、騎手
今年のメンバーで逃げ馬はアグネススターチしかおらず、騎乗する赤木騎手が逃げ宣言もしています。ショウナンアルパは前回控えて惨敗した反動で先行してくると思われすが、外枠を引いてしまいましたが、折り合いが難しい馬なので逃げ宣言馬にわざわざ競りかける愚はしないと思います。ショウナンアルパのベストレースはヤマト通信杯で、競馬手は3.4番手や折り合わせをすることを目標に乗るでしょう。あとは、レツゴーキリシマやサクセスブロッケンが先行馬ですが、どちらも無理してまで逃げたいタイプではありません。先頭に立つのはアグネススターチと考えます。

アグネススターチは全2勝を逃げていた時にあげています。自身のベストレースであるプリンパルスも逃げてのもので、前にいけど指数を上昇させるタフ系SHP馬と考えられます。もしくは、新馬戦で後方から上がり1位の脚で差してきたパフォーマンスからすると、馬ごみで他馬を気にしてしまい能力が削られるタイプかもしれません。

競馬パークメルマガで触れましたが、アグネススターチの父パルガムフェローは「ダート馬という印象ですが、芝2400mは得意距離というデータがあり、好走馬はタフ系SHPがある逃げ先行馬という傾向も、アグネススターチの個性に合致しています。

逃げた場合、コーナーや直線で最内を通ることになりますが、コースに替わった先週の東京競馬場は最内の伸びが良く、普通に通る距離ロスが最小の経済コースを通れる利は最大であると判定できます。良馬場で高速馬場なら前が止まらない状況になりタフ系馬には理想的な展開が見込めます。人気になりそうな逃げ先行馬がいらないのも嬉しい風。

赤木騎手は最近、東海Sを16番人気のラッキーブレイクで3角先頭の積極的競馬で2着に入ったり、都大路Sを16番人気のフサイチアウスで逃げ切ったり、プリンパルスを18番人気のこの馬で2着に逃げ粘るという極端な穴馬を馬券に絡ませていました。逃げ先行に良いイメージを持ち、自分でレースを作る騎手であり、この馬との相性はピッタリでしょう。

3. マイナス要素の検討
人気薄ですからマイナス要素もたくさんあるので、その検討をしておきましょう。この馬は芝未勝利ですが、過去20年で、芝未勝利のままダービーを3着以内したのは1998年ダイワスベリアー(3着)と1989年のウィナーズサークル(1着)しかいません。しかし、ダイワスベリアーがいるなら問題ないとも思えます。

この馬は年明け6戦も消化しており、使い詰めも気になりますね。年明け6戦以上で馬券に絡んでいるのは、1998年ダイワスベリアー(6戦、3着)、1997年シルクジャスティス(7戦、2着)、1996年メイショウエニエ(7戦、3着)の3頭。やはり少数派ですが、これらの馬は人気以上に好走していますから、使い詰めだから消しというのは勿体無い思考ではないでしょうか。

末脚の威力がないという懸念があるので、「近3走で上がり3位以上なし」馬を調べてみました。この条件で馬券に絡んでいるのは2007年アサキキョウ(2着)、1997年サニーブライアン(1着)、1992年ライシヤワ(2着)の3頭。決め手がない馬は圧倒的に不利な舞台であるものの、前々に行くタイプの馬であれば全く目がないというわけではないので、アグネススターチは新馬戦で上がり3ハロン3ウ、4ウ(1位)を計時しており、末脚が全く使えないという馬でもありません。

血統。パルガムフェロー産駒は1000万下条件までは好走しますが、準OPに上がるとめっきり走らなくなります。G1の大舞台で活躍できる種牡馬ではないですから、これが弱点であることも否めません。しかし、この馬の母系は祖母にアグネスレディ(オークス馬)があり、アグネスフライトやアグネススタキオンと従兄弟の関係になるため、クラシックとの縁はあっておかしくないと思います。

4. 軸格付けと結論
ディーブスカイも成長してはいますが、決め手のある馬を本命にするほうが日本ダービーの予想としてはマシです。一番人気になりそうですが、軸格付けはこの馬を本命にしてもD判定。この大波乱の可能性がありますから、進んで馬に重い印を打つべきだと思います。

アグネスターチ(赤木)
前走のプリンパルスでは同型馬のプレッシャーを受けながら速いペースで逃げ、伸びない内の馬場を走りながらクラシック路線の重賞上位馬を0.4秒以上振り切った2着に粘った内容は優秀。単なる重巧者の疑いや、他馬を振り切る腕い面もありそうだが、単騎逃げが想定される馬場が良い条件となる今回は一発があってもおかしくない感星馬。◎

「starch」(この織りではないかもしれない)には「澱粉」という意味の他に「持久力」「ずぶとさ」という意味があるようです。大いにずぶとさを発揮してほしいですね。悪くとも直線の半ばまで先頭で走りながら、手に汗握る直線になることは間違いないでしょう(??)

- スマイルジャック(小牧太)
前走は皇月賞9着。先行して手応え良く4角を回ってきたものの追って伸びず、ペースと持ち指数からは不可解な惨敗となった。SHPが加速系かつタフ系でないことから距離延長、東京コースは良いとは言えないが、前走をスプリングSでマイナス10キロに絞った反動と見れば、指数的に巻き返せる余地がありオッズと比して非常に面白い馬。△
- アドマイヤコマンド(川田)
新馬戦を直線だけで後続を7馬身突き入り印象深い勝ち方をしたが、続く毎日杯でもディーブスカイに続く2着に入り僅かなキャリアでクラシック路線に上がってきた。青葉賞では内で立ち回れた利があり、2、3着馬とレース内容は同じくらいに見えるが、上がり最速での楽勝であるため青葉賞組の3頭の中では一番有力と考えるのが自然。天星指数はそれほど高くないが、青葉賞の指数はやや安定を欠いており、実際はもう少し高い能力があってもおかしくないし、走法や持続系◎からも日本ダービーで通用できる性質があると感じられる。△
- マイネルチャールズ(松岡)
ホープフルS、京成杯、弥生賞を3連勝し、この世代では実績上位。皇月賞は3着に甘んじたが、前残りの条件で、キャパテントーレに積極的に行かされたのでうまくいかなかった結果。東京への条件変更は悪くなく、懸念材料である上がりの遅さは松岡騎手が前々で競馬をすることである程度はカバーできそうだが、騎手コメントから先行してくれるか微妙だし、元々指数は高くなく、皇月より着順が上がる線は薄いのではないかと。注
- レインボーベガサス(安藤勝)
前走の皇月賞は4着。末脚を見ると距離延長の向く持続系で、やや掛かり癖のある不器用タイプ。安藤勝騎手は心強い。ダービーでの巻き返しが可能な皇月賞の上がり最速馬であり、リーディングサイアーであるアグネススタキオン産駒も追い風と考えられ、しっかり買っておきたい。△
- レツゴーキリシマ(幸)
皇月賞では外枠に泣いたが、最後の伸び方からすればこれ以上の距離延長は向かない。NHKマイルCで指数を落とし敗退しており、おそろし調子は下降線。ダービーは記念出走の意味を薄くし、考える。決め手が無いのに先行して穴をあけるライシヤワ、サニーブライアン、アサキキョウはタフ系の素養(上がり勝負で決め手を見せない)があった馬で、レツゴーキリシマは違う印象。
- サブジェクト(吉田豊)
クラシック登壇門レースであるラジョNIKKI杯2歳Sを勝利したものの、レースレベルは下がってしまった。皇月賞は鞍上が完璧な騎乗をしたにもかかわらず見せ場すらない惨敗で、買える根拠がない。

- ベンチャーナイン(武士沢)
皇月賞及び皇月賞トライアルでは中身コースで、スローペースと多頭数の大外を回るコーナーロスの影響から持ち指数程の活躍が全くできなかった。皇月賞予想時馬には、末脚はそれほど長くはないと見ていたが、プリンパルスでは重馬場も味方のか長く良い脚を使って持ち指数を更に上昇させ勝利した。大外を回すロスを考慮しても3番手争いには加わる末脚能力があり、引き続き穴馬として狙ってみたい。△
- エーシオワード(和田)
アーリントンC、NZTで2着し賞金を積み上げてきた。前走のNHKマイルCは外枠から大外を回るロスがあったが、勝ち馬から1.5秒差は負けず、マイルまでの実績しなくない特段の戦法や特徴もないので、馬券からは消去したい。
- フローテーション(藤岡佑)
前走は皇月賞11着。皇月賞では17番手から発走し、スローペースで後方待機をしたロスが大きかったし、スプリングSの指数は皇月賞組中でもそれほど劣っていないため、巻き返しができないとは言えないものの、ベストレースであるスプリングS2着がイン突きの敗った形だけだったに、外枠を買った今回は馬券に絡む可能性が低そう。
- メイショウオリア(岩田)
京都新聞杯を勝利し、ダービーの出走権を掴んだ。しかし、京都新聞杯はプリンパルスよりも明らかに格下のメンバー(500万下級)を相手にぎりぎり勝利できた程度で、能力で通用できないと見る。
- ショウナンアルパ(蛸名)
前走は大外枠を引いたことから中団以降で抑える競馬を試してみたようだが、気性の無理があり3角前で行い上げて脚を浪費し、コーナーでも大外をぶん回す駄騎乗により14着に沈んだ。高素質馬であることは間違いないが、行き過ぎる気性に加えて高素質の高さから更なる距離延長はプラスとは言えない。逃げ折り折りかかるとは微妙。青葉賞2、3着からローテーションは日本ダービーの歴史で苦戦を強いられており(過去15年で本番馬券に絡んだ馬は皆無、最高で5着)、青葉賞の細い流れが得意なタイプだったという理由で敗退することも想定できる。注

ワックスムーンの日本ダービー予想

新ディープ伝説を刻む！○ディープスカイ

混戦に終止符！

皐月賞馬のキャプテントウレが無念のリタイアとなり、更に混迷を極めると思われた今年のダービー戦線。しかし、奇しくもキャプテントウレ同じ父を持つ2頭のサラブレッドが混戦を断つべく駒を進めてきました。NHKマイルC馬ディープスカイと僅か3戦というキャリアで青葉賞を制覇したアドマイヤコマンドです。

2頭とも魅力のあるサラブレッドですが、今年のダービーの本命馬は、毎日杯終了時点でNHKマイル勝利を条件にディープスカイと心に決めていました。馬流天星のブログにも4月22日付けの記事でも書いています。

ダービーはそれ相応の馬が勝利するものだという思いもありますし、世代ナンバー1のインパクトを残してきたこの馬が今年のダービー馬に相応しいと思います。

これで終わってはあまりに説得力がありませんので、皐月賞で一応の結果(上位6頭評価のBOXで3連複方馬券)が出ている採点方式を行う事とします。

今年の皐月賞の採点方式(上限が100点)では、例えばディープインバクトの100点と他の馬の90点が点数上はあまり差がつかないなど自分でも釈然としないものでしたので、ダービーでは、上限のない採点方式を採用しました。点数をより多く獲得した馬が、馬券になる可能性が高い馬だと考えてください(ちなみに過去10年の最高点はディープインバクトの200点がダントツでした。)

なお、この紙面上で全てを公開するのは難しいため、ここでは核となる3つの基本データのみ掲載させていただき、全体は添付資料をご覧ください(形にしたいと思えます。その点は予めご了承ください)。

第一関門：ローテーション別条件

過去10年の馬券圏内馬30頭のうち15頭が、前走皐月賞で残る15頭が所謂別路線組だ。既に近年のダービーは皐月賞が王道ローテではないことを物語るデータである。ローテに関しては昨年桜花賞をステップにしたウオッカが優勝したように、今後も例外が出てくるだろう。それでもダービーを好走するに相応しい評価を受け、実績を残してきたかという意味で考察する必要はある。

皐月賞組：皐月賞優勝or上がり2位以内馬を評価。人気は不問。タケミカヅチ、レインボーベガサス

青葉賞組：上がり2位以内で勝利馬を評価。人気は2番人気以内。アドマイヤコマンド

京都新聞杯組：上がり2位以内で勝利した馬を評価。人気は2番人気以内。メイショウウオリア

NHKマイルC組：上がり1位で勝利した馬を評価。(次点で上がり2位以内かつ3着以内馬を評価。)人気は3番人気以内。ディープスカイ(ブラックシェル)

プリンシパルス組：上がり2位以内で連対した馬を評価。人気は不問。ベンチャーナイン

その他OP以上組：上がり1位で連対した馬を評価。人気は1番人気のみ。サクセスブロッケン

第二関門：絶対能力

その世代の頂点を争うダービーで好走するには、そのキャリアの中で一際目立つレースをしている必要がある。過去10年、以下の何れにも該当せずに馬券になったのは、04年2着のハーツクライのみであり、例え人気薄でも、激走した馬にも共通しているため、見逃せないデータだ。該当が僅か4頭であることを考えても、今年が傑出馬と呼べる馬が少なかったかという事であろう。

◎3歳重賞▲0.3差以上or皐月賞馬ディープスカイ

○重賞▲0.2差以上or3歳OP▲0.4差以上アドマイヤコマンド、サクセスブロッケン

△上記以外▲0.3差以上or連対率100%マイネルチャールズ、ショウナンアルバ

第3関門：末脚能力

既にブログでも公開済みであるが、ダービーで好走するには、それ相応の末脚能力が必要である。

過去10年、そのキャリアでレース内の末脚タイムが上位3位以内の割合が50%を割っていた馬は、昨年の2着馬アサクサキングスのみであった。上がり80%未満の馬は、以下の7頭のみ。例外的に救える要素がなく、80%未満の馬が好走する余地は限りなく低いと言えるだろう。

アサクサキングス	33%	(きさらぎ賞で▲0.3差勝利)
ボールドエンペラー	55%	(皐月賞は上がり2位)
ティエムオベラオー	60%	(皐月賞馬)
アドマイヤコマンド	67%	(青葉賞で上がり2位、▲0.7差勝利)
メイショウサムソン	70%	(皐月賞馬)
アグネスフライト	75%	(京都新聞杯で上がり1位勝利)
マチカネアカツキ	75%	(連対率100%)

今年の出走馬で末脚80%を満たすのは、以下の5頭のみ。
 ブラックシェル 100%
 クリスタルウイング 100%
 モンテクリスエス 100%
 サクセスブロッケン 100% (芝キャリアなし)
 ディープスカイ 90% (惨敗した未勝利戦をノークラントなら100%)

加えて例外的に救える馬は以下の5頭。
 レインボーベガサス 78% (皐月上がり1位)
 ベンチャーナイン 75% (上がり1位でプリンシパルス連対は過去に好走例あり)
 アドマイヤコマンド 67% (2/3なので数字が悪いが、上がり1位で青葉賞勝利)
 メイショウウオリア 67% (上がり1位で京都新聞杯勝利)
 タケミカヅチ 63% (皐月上がり2位)

データ合致状況

1~3の基本データについて、全て合致している馬は、ディープスカイ、アドマイヤコマンド、サクセスブロッケンの僅か3頭のみである。

2つ合致馬が、タケミカヅチ、メイショウウオリア、ベンチャーナイン、レインボーベガサス、ブラックシェルまでとなり、第三議席を争う。ブロッケンを全合致馬とする事に違和感はあるものの、ダートとはいえ傑出した能力を示しており、芝未勝利ながら、皐月賞を制覇したダイワメジャーの例もある。ブロッケンには芝未経験のため、判断する材料がないが、血統的には母父サンデー馬でもあり、可能性を否定する程の材料がないため、決断は後段で行う。

過去10年の馬券圏内馬は、全合致馬が24頭、2つ合致馬が6頭であり、1つ合致馬が馬券になったケースはない。通常であれば、全合致馬が4~5頭は存在するものであるが、今年には僅かに3頭。この3頭、特に府中コースの芝重賞を上がり1位で完勝している2頭が勝ち負けになる可能性は非常に高いといえよう。ちなみに2つ合致馬が全合致馬を差し置いて優勝を果たしたのは、アドマイヤベガ1頭のみであり、他は2着2頭、3着3頭であった。

枠順、騎手など

過去10年の5番以内の馬が7勝しているように内枠馬有利な舞台。騎手はここ10年の掲示板馬の騎手を見れば気付く事だが、前年の掲示板騎手が、03年を除いては、翌年のダービーで最低1人は必ず馬券になっている。今年の該当騎手は、四位、福永、岩田、松岡、蛸名の5名。注意したい。

最後にブログにも公開済みであるが、ここ6年の1着馬に共通する単純明快なデータ。メンバー中取得賞金が最も多い馬が優勝していることである。ウオッカ以外の5頭は1番人気だったので、あまり強調できるデータではないのだが、昨年のホウオーが1番人気で敗れているだけに貴重なデータだろう。今年の賞金王はディープスカイである。

最終決断

予想前提条件

採点結果を優先しつつも、アグネススターチが平均ペース以上で逃げる可能性が高いことから、末脚ポイント(原則過去3走の末脚能力を数値化したもので、値が小さいほど末脚が優れている)を加味した予想を行う。

◎ 1 ディープスカイ 140点 末脚ポイント ▲1.4
 不動の1着候補。採点結果もダントツの140点を獲得した。類稀なる末脚能力は間違いなく世代トップのもの。府中2400は能力を証明する絶好の舞台であろう。

○ 4 タケミカヅチ 110点 末脚ポイント ▲0.3
 デビュー戦以降一貫して重賞レースを使い続けているが、2戦目の新潟2歳S6着以降はオール掲示板内をキープしているように間違いなく基本能力が高い1頭。この手のタイプはGIレースの厳しい流れで台頭する可能性が高く、05年3着のシックスセンスを彷彿とさせる。皐月賞2着馬ながら過剰に人気しないところも妙味。ただし、善臣騎乗の差し馬だけに頭の期待は辛いものの、今年は皐月賞馬不在でもありチャンスはあるか。

▲ 10 レインボーベガサス 95点 末脚ポイント ▲1.3 (当日単勝6番人気以下であれば+20点)
 今世代では数少ない上がり34秒台で重賞を制覇した馬であり、皐月賞上がり1位の末脚は魅力。安藤騎手はクラシックの騎乗馬に紆余曲折がありながら、調教をつけ続けるなど、最後まで手放さなかったこの馬の潜在能力は高いはず。皐月賞4着以下からの巻き返しは過去10年では5頭いるが、共通するのは関西所産馬かつ関西圏のOP以上レースを勝利していた馬であり、きさらぎ賞馬のこの馬も条件を満たしている。また、きさらぎ賞連対馬は、過去10年のダービーで8頭馬券になっているように相性がいいレースである。単穴ならこの馬か。

△ 8 アドマイヤコマンド 120点 末脚ポイント ▲0.6
 キャリア3戦で青葉賞を完勝したスケール感はこのメンバーでは上位。距離をこなしていることから、不安点前走で12キロ減った馬体か。学習能力の高い馬という橋田調教師の言葉通りであれば、輸送も2度目。馬体を維持しているようなら、勝ち負けしておかしくない能力の持ち主だ。

以上の4頭は1着の可能性はあるか。(次頁に続く)

ワックスムーンの日本ダービー予想

新ディープ伝説を刻め！◎ディープスカイ

混戦に終止符！

最終決断

△ 6 モンテクリスエス 75点 末脚ポイント ▲0.3

青葉賞は内枠有利な馬場条件、外枠、不向きなめめる馬場という悪条件が重なったが、3着を確保した事に非凡な能力を感じた。トライアルという観点では、厳しいレースが出来た分、アドマイヤコマンドより有利と考えるし、枠順が好転した今回は逆転の目もあるのではないかと。青葉賞敗退組はダービーで好走する可能性は極めて低いが、府中2400が得意な福永騎手であれば可能性があると考えられる。

△ 3 ブラックシェル 105点 末脚ポイント ▲0.2

ダービー男の武豊騎手が跨ることとなったのは間違いなくプラス。混戦となれば、最後は騎手や厩舎の力が怖い。先週のオークス然り。通常であれば人気にもなるため軽視したいところだが、皐月賞の内容が想像以上のパフォーマンスであり、感覚を詰めて使った場合のほうが好走している事を考えれば、今回は軽視できないが、ダービーを勝利するまでのイメージは湧いてこない。

上記2頭は2着候補。

△ 18 クリスタルウイング 65点 末脚ポイント ▲0.9

青葉賞の内容は勝ち馬とほぼ同レベル。過去10年で2頭のダービー2着馬を送り込んでいる藤澤厩舎のため、ダービーで好走させるノウハウはありそう。外枠を引いてしまった不利はあるが、7、8枠からの3着馬は、過去10年で8頭と最も多く、3着候補として狙うのなら、さほど割引く必要もないだろう。

△ 13 ベンチャーナイン 40点 末脚ポイント ▲2.6

過去10年、二桁人気以下で馬券圏内に激走した馬は4頭いるが、今回、10番人気以下が予想される馬の中で、激走期待値が高いのはこの馬だろう。皐月賞前からダービーでの穴と考えていた馬でもあり、期待値込みで買っておきたい。末脚ポイントも驚愕の▲2.6であり府中コースなら激走してもおかしくはないが、ダービー初出場の武士沢には荷が重いという気もする。

△ 7 スマイルジャック 40点 末脚ポイント 1.6

母父サンデーに昨年優勝のウオッカと同じ父タニノギムレットと血統的に府中2400適性はありそう。明らかに調子落ちが見られた皐月賞でも0.9差に踏みとどまった点を見ると基本能力はメンバーでも上位のものがあがり、先行して重賞で結果を出した経験(きさらぎ賞、スプリングS)があるため、基本データにも合致しない馬ではあるが、念のため買おうと思う。切れ味は不足しているが、ここまで人気もなければ思い切った先行策を取るだろうし、弱点を補える可能性はあるだろう。この3頭は3着候補で。

主な消去馬の消去理由

9 マイネルチャールズ(55点)は450キロと牡馬としては小柄なタイプであり、連続して馬体重が減っているように上積み期待値は低い。厩舎のダービー実績もない。また、上位人気馬の中で最も採点結果が悪く、末脚ポイントも0.9と見劣りするため府中コースで皐月賞以上のパフォーマンスは不可能だと考える。

17 ショウナンアルバ(50点)の共同通信杯は強い内容と思い評価してきたが、そこで▲0.4差下したサダムイダテンがマイルCで▲1.5差の完敗を喫しているほか、自身も皐月賞で見せ場なしの惨敗を喫しているように、今回の能力上位馬との力差は大きいのではないかと。今や当時2着のタケミカツチとの立場も逆転したと考えられる。末脚ポイントも1.5と今回のメンバーでは下位ランクであり、気性の問題を抱えている馬がダービーの舞台で好走するとは思えない。枠も2戦連続で外枠と運に見放された感もある。

16 メイショウウクオリア(45点)は基本データ上の問題ないが、強い相手と戦った経験もなく、京都新聞杯の内容も平凡だったため、ダービーで馬券になるまでとは考えられず、消去した。

2 サクセスブロッケン(45点)は全てが未知数の馬のため、当初は買い候補であったが、シンボリクリスエス産駒は例え芝馬でも使いつつ良くなるタイプが多いことを考えると、芝緒戦から能力全開とまではいかないのではないかと考える。また、かなりの過剰人気も予想され、配当面でも妙味がないため消去することとした。

基本買い目

3連単 ディープスカイ1着固定 8頭流し 56点
1→3、4、6、7、8、10、13、18

ディープスカイが2・3着時の保険馬券

3連単 フォーマーション 21点

1着 4、8、10
2着 1
3着 3、4、6、7、8、10、13、18

3連単 フォーマーション 21点

1着 4、8、10
2着 3、4、6、7、8、10、13、18
3着 1

スカイポットのダービー予想(結論)

全馬コメントが終わりまして、印は以下のとおりとなりました。

- ◎5 アグネススターチ
- 1 ディープスカイ
- △2 サクセスブロッケン
- △3 ブラックシェル
- △7 スマイルジャック
- △8 アドマイヤコマンド
- △10 レインボーベガサス
- △13 ベンチャーナイン
- 注4 タケミカツチ
- 注6 モンテクリスエス
- 注9 マイネルチャールズ
- 注17 ショウナンアルバ
- 注18 クリスタルウイング

基本は持ち指数の高い馬を重視しています。かなり印が多くなってしまいましたが、「注」は悩んだ結果私としては軽視した馬になっています。

★推奨馬券案
◎と○の単勝(2点×20)
◎～△の3連複ボックス(56点)

私の実馬券では3連単や注の3着付けなど手広く購入して後悔しないようにしたいと思っています。アグネススターチが来て外れると精神的に非常にまずいので(苦笑)

★最終確認

- ・土曜日の馬場状態はやはり内が良く、東京8Rでハツカリ(13番人気)が3着に逃げ粘り、10Rでスピードタッチ(1番人気)が逃げ切っている。
 - ・白百合SでプリンシパルS3着だったヤマニンキングリーが勝利。中京は雨、やや重馬場だったことから、ヤマニンキングリーがプリンシパルSで重馬場のために指数を下げて負けたのではないことが証明されたと思われる。
 - ・日曜日は晴れで気温も高く馬場はどんどん乾いていこうが、2006年のダービーと同様、更に内が良くなる可能性も高い。
 - ・アグネススターチは速い調教時計(全体時計だが)を出しており、過去の優秀なタフ系馬の傾向に符合する。
- 本命馬に逆風となる材料はないと思われる。

編集後記(スカイポット)

今回は日本ダービー予想レポートをお読みいただきありがとうございました。2人とも見立てや考え方は違いますし、かなりの情報量になっていますから、この中から貴方が納得できる情報をご参考にさせていただきます。日本ダービーで馬券を的中できるよう、お祈りいたします。今後とも馬流天をよろしくお願ひいたします。